

## サテライトシンポジウム 1

12月9日(木) 第4会場(会議室 1001-1) 17:30~19:30

### 諸機関連携による HIV/AIDS 予防~HIV 感染者の栄養支援と歯科診療~

■座長：塩入康史(特定非営利活動法人 HIV と人権・情報センター)

#### ■演者

- ・諸機関連携による HIV 感染者・患者の栄養支援のあり方  
木下ゆり(特定非営利活動法人 HIV と人権・情報センター/管理栄養士)
- ・HIV 感染者ならびにウイルス感染症患者の歯科診療の現状と課題  
新庄文明(長崎大学大学院医歯薬総合研究科/歯科医師)

#### ■趣旨

世界で AIDS 対策を成功させてきたオーストラリア、英国、カナダなどの国々では、行政・医療・教育機関・AIDS/NGO などあらゆる機関が効率的・効果的に連携しています。

日本においてもこれまでの枠組みを超えて諸機関が連携をすすめていくことで、地域力を向上させ、感染予防や AIDS 発症予防を促進し、あわせて感染者・患者の人権を擁護する共生社会を目指していくことが望まれています。

このシンポジウムでは、感染者・患者の QOL 向上に欠かせない栄養支援と口腔衛生管理(歯科診療)において、諸機関連携の現状と課題を厚生労働科学研究の調査結果をもとに明らかにし、当事者がよりよいサービスを受けられるような諸機関パートナーシップのあり方についてのモデル形成を目指し、意見交換したいと思います。

皆様のご参加をお待ちしています。

#### ■主催

(財)エイズ予防財団

#### ■実施団体

特定非営利活動法人 HIV と人権・情報センター

---

## サテライトシンポジウム 2

12月9日（木）第5会場（会議室 1001-2）17:30~19:30

### 薬物・アルコール依存症と HIV 感染症

■主催団体名：JANAC（HIV/AIDS 看護学会）

■座 長：市橋恵子（有限会社オフィスグレイス・訪問看護ステーション堂山）

#### ■趣 旨

JANACでは、HIV感染症の臨床現場において、今最も大きなケアの 이슈ーについてのシンポジウムをエイズ学会で開催している。

昨年のエイズ学会においては、依存症をもつ HIV感染者とのかかわりについての現状が報告された。今年はこの問題をもつクライアントに対するアプローチの方法について学びあう機会としたい。

#### ■内 容

依存症にかかわる多職種をシンポジストに迎えてのシンポジウム

#### ■演 者

- ・医師の立場から  
赤穂理絵（東京都立駒込病院神経科）
- ・ケースワーカーの立場から  
伊賀陽子（兵庫医科大学）
- ・看護師の立場から  
村上未知子（東京大学医科学研究所附属病院）  
尾田真言（NPO 法人アジア太平洋地域アディクション研究所事務局長）  
川口るり子（NPO 法人アジア太平洋地域アディクション研究所カウンセラー）

## サテライトシンポジウム 3

12月10日(金) 第4会場(会議室1001-1) 16:40~19:10 一般公開

### ゲイ・バイセクシュアル男性のメンタルヘルスと HIV 感染予防行動 1 —支援のあり方を保健・医療・福祉・教育の関係者と共に考える—

■主催団体：財団法人エイズ予防財団

厚生労働省エイズ対策研究事業男性同性間のHIV感染予防対策とその推進に関する研究班

■座長：市川誠一(名古屋市立大学大学院看護学研究科)

矢永由里子(九州大学大学院人間環境学府)

#### ■趣旨

わが国において HIV 感染の拡大が懸念され、その対策が急務と考えられるのはゲイ・バイセクシュアル男性/Men who have Sex with Men (MSM) です。これまでも予防啓発や介入の取り組みが少なからず行われていますが、依然としてその感染拡大傾向は続いています。より効果的な HIV 対策を実施するためには、MSM の HIV 感染予防行動を阻害する要因を明らかにするとともに、その要因を改善するような働きかけや取り組みが必要であると考えられます。

そこで本サテライトシンポジウムでは、MSM の生育過程における出来事の実態、ストレスやメンタルヘルスの現状および HIV 感染予防行動についてのインターネット調査 SPIRITS@Wave 2 (研究参加者数 2,062 人) の集計結果に基づく話題提供や、MSM の臨床経験が豊富な心理臨床家に話題提供をしていただきます。話題提供の内容をふまえてディスカッションを行い、ゲイ・バイセクシュアル男性に対する支援のあり方を保健・医療・福祉・教育領域の関係者とともに考える機会としたいと思います。

#### ■内容

1. シンポジウムの趣旨説明と MSM における HIV 感染状況  
市川誠一(名古屋市立大学看護学研究科)
2. インターネット調査 SPIRITS@Wave 2 の数量データ  
日高庸晴(京都大学大学院医学研究科)
3. インターネット調査 SPIRITS@Wave 2 の自由記述データ  
安尾利彦(国立大阪医療センター/財団法人エイズ予防財団)
4. MSM のメンタルヘルス(一般の心理臨床の場面から)  
大場 登(放送大学大学院臨床心理プログラム)
5. MSM のメンタルヘルス(HIV の心理臨床の場面から)  
古谷野淳子(大阪府健康福祉部)
6. 研究と現場をつなぐ—研究者と臨床家の立場から  
浦尾充子(千葉大学附属病院/京都大学大学院医学研究科)

---

## サテライトシンポジウム 4

12月10日（金）13:15～18:00 ブヶ東海静岡(静岡駅前)ローズ（5階）

（静岡県主催公開講座）

### 静岡発～AIDS～未来へ架ける橋

第1部（13:15～15:50）

これからのエイズ教育—若者にAIDSを伝える—

学校でのAIDS教育の必要性や実際の授業での展開のしかた、AIDSを伝える視点などについて、当事者である若者をはじめ、学校現場の教師、地域の保健所、教育・研究機関、NPOが一堂に会して、様々な事例や課題、各シンポジストが持つノウハウを共有します。

■コーディネーター：松田正己（静岡県立大学看護学部教授）

■シンポジスト

学校現場の立場から

佐野博己（静岡県立吉原工業高等学校教諭）

田畑浩子（磐田市立磐田第一中学校教諭）

教育大学の立場から

赤田信一（静岡大学教育学部保健体育講座助教授）

地域保健の立場から

岩室紳也（（社）地域医療振興協会ヘルスプロモーション研究センターセンター長）

NGO・若者の立場から

大畑智矢（静岡県エイズピアエデュケーター）

伊藤麻里子（特定非営利活動法人HIVと人権・情報センターYYSPスタッフ）

行政の立場から

西本正子（静岡県北遠保健所健康増進課長）

第2部（16:10～18:00）

「市民活動」と「行政の取り組み」—キーワードはAIDS—

AIDSを切り口に、静岡で活動する様々な市民活動団体の活動と、協働することで広がる行政の取り組みを報告しあい、いろいろな人の力でさらに豊かな地域をめざしたいと思います。

■コーディネーター：五島真理為（特定非営利活動法人HIVと人権・情報センター理事長）

■シンポジスト

静岡で活動する市民活動の立場から

鈴木恵子（特定非営利活動法人魅惑的倶楽部理事長）

中山保之（特定非営利活動法人リビングトゥゲザー理事長）

吉田なつ恵（フレンズフォーライフ代表・イナダラングエイズ研究財団日本事務局長）

大郷宏基（特定非営利活動法人 HIV と人権・情報センター中部支部スタッフ）

行政の立場から

倉野晴江（静岡県西部保健所健康増進課主任）

■主 催：静岡県

■担 当：疾病対策室

---

## サテライトシンポジウム 5

12月11日（土）第5会場（会議室1001-2）13:40～17:10

### 中高生のエイズ予防教育」WYSHプロジェクト エビデンスに基づく予防の導入～保護者・学校・地域から～

■主催団体：厚生労働省 HIV 社会疫学研究班若者予防グループ  
コーディネーター：木原雅子（京都大学大学院医学研究科助教授）

■シンポジスト

第1部

「中高生の性意識・性行動の現状とエビデンスに基づく予防の取り組み」  
～WYSHプロジェクト概要）～  
木原雅子（同上）

第2部

「WYSHプロジェクトにおける多角的予防の取り組み」

1. 保護者の立場から  
高橋正夫（社団法人全国高等学校PTA連合会副会長）
2. 学校の管理職の立場から  
塚本幸男（四街道市立千代田中学校教頭）
3. 学校の保健主事の立場から  
小池桂子（静岡県立磐田北高等学校保健主事）
4. 教育委員会の立場から  
今井 誠（京都市教育委員会指導主事）
5. 保健所の保健師の立場から  
楠田為世子（A県保健所専門官）

■趣 旨

近年、若者の性行動が活発化・ネットワーク化・無防備化し、10代の人工妊娠中絶の増加、一般のSTD、HIV感染も若年者を中心に流行拡大の兆しが現れている。このような状況の中、有効な予防教育（対策）の開発・実施・普及が緊要の課題となっている。WYSH（Well-being of Youth in Sexual Health）プロジェクトは、地域の実情に即したエビデンスに基づくエイズ予防教育（対策）を開発・実施するために発足したプロジェクトであるが、本シンポジウムではその取り組みの実例を紹介する。

■内 容

第1部では、WYSH予防プロジェクトの実施デザインと効果評価の結果を紹介し、第2部では、子どもたちを取り巻く保護者、学校関係者、教育委員会、保健行政担当者など、本プロジェクトに参加している様々な立場の人たちと会場の参加者とともに、これからの予防のあり方についての総合討論を行なう。